

北 京五輪代表の座をかけて24人の熱い戦いが繰り広げられた日本選手権400m。夢の切符は次のロンドン五輪にお預けとなったが、どんな条件でも力を出せるトップランナーとの戦いは彼を大きく成長させました。

浦野君が陸上を本格的に始めたのは第二中学校3年のとき。「顧問の山内先生に陸上の楽しさを教えてもらいました」と自分の原点を振り返ります。それまでは、陸上部に所属するも、ともに練習することは少なかったと言います。先生との出会いが彼を変え、中学3年生の1年間で400mの記録を10秒以上縮めるなど、次第に才能を開花させていきました。

皆実高校に入學してからも順調に記録を伸ばし、高校2年生の昨年7月、チエコのオストラバで開かれた世界ユース陸上選手権に日本代表として、メドレーリレーに出場し、銀メダルを獲得しました。陸上を始めてからわずか3年目での快挙でした。世界大会での栄冠を手にし、挑んだ昨年の全国高校総体インターハイでは、400mでまさかの5着、4人×400mリレーでも6着と、順風満帆の陸上人生で、初めて体験する逆風でした。記録も伸び悩んだころで、周りからのプレッシャーに押しつぶされそうになり、「陸上をやめたほうが楽になるのでは」と思ったのもこのころでした。

陸上に出会えたから今の自分がある。



しかし、その悔しさをバネに練習に打ち込み、今年5月の広島県高校総体では、自己ベストの47秒13で昨年に続く優勝。4人×400mリレーでも2位の沼田高校に7秒22の大差をつけての圧勝。続く6月の中国高校陸上選手権では、万全の状態でない中、今季日本高校ランキングトップとなる46秒94(県総体に続く自己ベスト)を出して優勝。4人×400mリレーでも大会記録で優勝しました。7月29日から8月2日に行われるインターハイで、4種目に出場します。400mと4人×400mリレーに出場を絞り、2冠を狙うという考えは全くなく、「自分の陸上人生は、高

校で終わりではない。これから世界で戦うためには4種目出ることの意味がある。今まで自分を支えてくれた家族や山内先生、皆実高校陸上部監督の尾崎先生のためにも最高の走りを見せる」と昨年の雪辱を胸に悲願の頂点をめざします。

「高校の先輩、為末さんのように、世界で戦える日本人になりたい」と将来の目標を語り、「世界の一流選手にしか分からない未知の領域に足を踏み入れてみたい。そして自分の走りでみんなに元氣や希望を与えられる選手になりたい」と夢を語る浦野君の姿はたくましく、輝いていました。

浦野 晃弘

Akihiro Urano

第二中学校出身 広島皆実高校3年 うらの あきひろ/
1990年8月17日生まれ。17歳。
身長177cm、体重62kg。
目標とする選手 ジェレミー・ウォリナー



今季日本高校400mランキングトップ
2007年7月 世界ユース選手権のメドレーリレーで銀メダル
2008年6月 北京五輪選考会となる日本選手権に出場
2008年7月 世界ジュニア選手権の準決勝に進出
2008年7月29日～8月2日 インターハイで悲願の全国制覇に挑む

幡地 隆寛

Takahiro Hatadi

宮浦中学校3年 はたち たかひろ/
1993年6月30日生まれ、15歳。
身長182cm、体重69kg。
目標とする選手 タイガー・ウッズ



全ホール、バーディーをねらう。

ゴ

ルフとの出会いは、父に連れられて行ったゴルフ練習場。小学5年生のときでした。「最初は、ボールが遠くに飛ぶだけで楽しかった」と語ります。それからゴルフの魅力に取りつかれていった幡地君は、父との練習を積み重ねていきました。

ゴルフを続けていく上で一番辛かったことは、友達が遊んでいてもゴルフの練習をしないといけなかったこと。それでも、ゴルフでいいスコアが出せたときは、そんな辛さも忘れられたと言います。

宮浦中学校に入学したとき162cmだった身長も、182cmとなり、

筋力トレーニングや下半身を鍛えるためのランニングを精力的にこなし、今ではドライバーの平均飛距離が280ヤードを超えると自信を見せます。

毎日の練習で400球を打ち込み、ドライバーに磨きをかける一方、スコアメイクに欠かせないショートゲームに力を注ぎます。

4月に賀茂カントリーで行われたロレックスジュニアゴルフチャンピオンシップで優勝した幡地君は、ジュニア界の頂点を競う6月のジャパンジュニアゴルフオールスター12歳〜14歳の部の出場権を手にし、夢の全国

大会制覇に挑みました。

全国的に見れば、まだまだ無名。格上のゴルフアークが揃う大会の試合前、「優勝が目標です。でも10位以内に入れればいいかな」と控えめに話す幡地君の言葉からは、秘めた自信を感じました。

長身から繰り出されるドライバーショットを武器に挑んだ全国大会では、2日とも雨に見舞われるあいにくのコンディションの中、初日を3バーディー1ボギーの2アンダー、首位から1打差の2位で折り返し、最終日も前日の好調を維持し、トータル3アンダーとして、見事逆転で栄冠を手にしました。格上相手の勝負に「思ったより緊張もなかったし、いつものプレーができた」と答えるなど、ものおじしない度胸の良さは一級品。今大会に優勝した幡地君は、8月に福岡県で行われるプロトーナメントのKBCオーガスタゴルフと来年2月のジュニアの世界大会（アメリカ開催）に出場します。

宮浦中学校の先輩で、5月のアメリカツアーにおいて、日本人3人目となる優勝に輝いた今田竜二さんについて尋ねると「今は自分の名前すら知らないと思いますが、いつかアメリカツアーで優勝を競いたいです」と夢を語る姿に、宮浦中学校出身の二人が世界を沸かせる日もそう遠くないかもしれないと感じました。

今季日本ジュニアゴルフ協会ランキングトップ（12歳〜14歳の部）
2008年5月 広島県アマチュア選手権 5連覇の田村尚之に続く2位
2008年6月 ジャパンジュニアゴルフオールスター で優勝
2008年8月28〜31日 プロトーナメント KBCオーガスタで石川遼に挑む